

リードオルガン 修復研修 (2)

○ 鍵盤部分

白鍵の張り替えを小笠原さんにしていただいたので、キーフレームにセットして動きを確認します。

高音部（右半分）のキーエンドピンを研磨してありますので、残りをペーパーヤスリ（ニット式）で研磨します。

清掃後、組み立てをして動作確認をします。

○ フイゴユニット部分

① ゴムクロスの接着予定部の接着剤（膠等）の完全除去をして

② 大袋（ドラフトフイゴ）の貼り

あらかじめ一部を膠付けしておきましたので 左右の一番難しい部分の貼りを致します。（蝶番部分は内側のみ貼り替えをしてありますので外側は後日にします）

フイゴの一番開いた状態を作り、その状態で貼ります。

③ 小袋（ドレインフイゴ）の貼り

片方は貼りなおしておきました、残りの1/2（内側）を貼っておきましたので、フイゴバルブの貼り直してある内部を観察し、貼り方を学びます。これもアダプターでフイゴを一番開いた状態で致します。

(蝶番部分も張り直してありますので、観察してください)

蝶番部分でゴム引きクロスの重なる部分はゴム系ボンドで接着
いたします。

④ 棚板との接着部分のガスケットの製作したものをはりつける。

昔は吸い取り紙の厚いものをつかっていたが、和紙ではなく経年劣化
が大きいので、この部分は暑さ 1 mm 位の和紙か山羊皮で作成する。

○ アクション、リード部分

① ストップ（音栓）アクションの動作確認と破損部品の作成交換

牛革のパーツは経年劣化が大きいので山羊皮で作成する

② リードバルブの清掃と動作確認

③ オクターブ機構の清掃と動作確認

④ 各リードの確認・清掃

⑤ アクションの組立と動作確認

◎ 次回はリードの調律を致します。